

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年11月7日

【四半期会計期間】 第3期第3四半期(自平成26年7月1日至平成26年9月30日)

【会社名】 アートsparkホールディングス株式会社

【英訳名】 ArtSpark Holdings Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 川端 一生

【本店の所在の場所】 東京都新宿区西新宿四丁目15番7号

【電話番号】 03-3710-2985

【事務連絡者氏名】 取締役 星 和彦

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区西新宿四丁目15番7号

【電話番号】 03-3710-2985

【事務連絡者氏名】 取締役 星 和彦

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第2期 第3四半期 連結累計期間	第3期 第3四半期 連結累計期間	第2期
会計期間	自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日
売上高 (千円)	2,764,150	2,341,789	3,685,419
経常損失() (千円)	73,624	337,196	68,222
四半期純損失()又は当期純利益 (千円)	89,814	341,705	42,811
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	56,198	341,556	62,933
純資産額 (千円)	2,290,638	1,965,806	2,286,213
総資産額 (千円)	3,825,680	3,401,555	3,650,704
1株当たり四半期純損失金額() 又は当期純利益金額 (円)	13.53	51.42	6.45
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			6.43
自己資本比率 (%)	59.2	56.5	61.9

回次	第2期 第3四半期 連結会計期間	第3期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日
1株当たり四半期純損失金額() (円)	16.15	17.28

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

特定子会社の異動はありませんが、第1四半期連結会計期間において、株式会社エイチアイ(当社の連結子会社)が、株式会社エイチアイ関西の株式を取得し子会社化したため、連結の範囲に含めております。

また第2四半期連結会計期間において、株式会社エイチアイが、株式会社U'eyes Designの株式を取得し子会社化したため、連結の範囲に含めております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

携帯端末市場の中心がスマートフォンへと急速に移行していく中で、当社グループは積極的に事業構造改革を進めており、コスト削減と利益率の向上を目指す一方で、戦略投資事業における投資の成果であるクリエイターサポート事業の強化及びUI/UX（ユーアイ/ユーエックス）事業の市場拡大を進めております。

当第3四半期連結累計期間においては、各事業セグメントにおいて、継続的に販売活動の強化を推進するとともに、前連結会計年度に実施した事業構造改革の成果による人件費の圧縮や減価償却費の軽減が、売上原価及び販売管理費の圧縮に貢献しております。これらの施策の結果、クリエイターサポート事業が黒字化しております。また、UI/UX事業における関西地域の事業基盤の拡大を目的として株式会社エイチアイ関西を孫会社化し、「デザインエンジニアリング」の推進強化の目的で株式会社U'eyes Designを孫会社化する等、積極的な拡大施策を展開しております。

その結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は2,341,789千円（前年同期比15.3%減）となりました。

UI/UX事業において、利益率の高いロイヤリティ収入の計上時期が翌四半期へずれこんだ影響等により、営業損益につきましては、313,766千円の営業損失（前年同期は80,929千円の営業損失）となりました。

また、経常損益につきましては、支払利息7,883千円、為替差損3,496千円の計上や、当社の持分法適用会社であるガラット株式会社に対する投資持分について、持分法による投資損失9,535千円を計上したこと等により、337,196千円の経常損失（前年同期は73,624千円の経常損失）となりました。純損益につきましては、株式会社エイチアイ関西の取得による負ののれん発生益13,849千円の計上等により、341,705千円の四半期純損失（前年同期は89,814千円の四半期純損失）となりました。

事業別セグメントにつきましては、以下のとおりであります。

<コンテンツソリューション事業>

コンテンツソリューション事業の中心である携帯電話市場におきましては、平成26年6月末で国内携帯電話加入契約数が1億4,106万台（前年比5.8%増）となっております。（社団法人電気通信事業者協会発表「携帯電話・PHS契約数」より）

このような経営環境の中、電子書籍ビューア「BS Reader for Browser」をiPhone・iPad向け最新OSの「iOS8」に対応させる等の施策を推進しております。また、「BS Reader for Browser」が利用されている電子書籍配信サービス数は、平成26年9月末では900サービス超となっております。

以上の結果、総合電子書籍ビューア「BS Reader」を軸として推進するコンテンツソリューション事業の売上高は、858,380千円（前年同期比8.4%減）となり、営業利益は34,678千円（前年同期比51.9%減）となりました。

<クリエイターサポート事業>

当第3四半期連結累計期間では、マンガ・イラスト制作ソフトウェア「CLIP STUDIO PAINT」のフランス語版、スペイン語版の販売を開始し、パリで開催のJapan Expoに出展しました。また、KADOKAWA Contents Academy株式会社の海外コンテンツスクール事業でマンガ・イラスト制作ソフトウェア「CLIP STUDIO PAINT EX」が教材として採用される等、海外市場の開拓を推進しております。

なお、クリエイターの創作活動をトータルに支援するサイト「CLIP」においては、平成26年9月末時点の登録者数は44万人となっております。

以上の結果、売上高は522,977千円（前年同期比15.2%増）、営業利益は5,796千円（前年同期は97,590千円の営業損失）となりました。

<UI/UX事業>

当第3四半期連結累計期間では、「デザインエンジニアリング」をテーマに、自動車関連分野を中心として、組み込みUIノウハウを集約した次世代UIオーサリングツールである「exbeans UI Conductor（エクスビーンズユーアイコンダクター）」の販売に注力すると共に、受託開発案件の受注活動を強化してまいりました。その結果顧客基盤の拡大が進み、受注状況は堅調に推移しております。費用面では開発プロセスの管理強化等の施策によって外注費を中心とした製造原価の削減を進めておりますが、利益率の高いロイヤリティ収入の計上時期が翌第4四半期にずれ込んだこと等から、売上高、営業利益ともに前年同期比較で大きく減少しております。

今後の事業拡大に向けて、関西方面での顧客対応を強化する目的で、株式会社エイチアイ関西を平成26年2月に孫会社化いたしました。また、「デザインエンジニアリング」の活動を強化し、その推進を加速させる目的で、株式会社U'eyes Designを平成26年4月に孫会社化いたしました。

以上の結果、売上高は882,418千円（前年同期比21.5%減）、営業損失は404,051千円の営業損失（前年同期は126,719千円の営業損失）となりました。

<アプリケーション事業>

アプリケーション事業につきましては、前連結会計年度より事業の縮小を進めております。新規の事業活動は行っており、継続中のサービス運用業務の手数料収入を収益計上しております。

以上の結果、売上高は113,303千円（前年同期比54.9%減）、営業利益は40,308千円（前年同期比87.3%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べて249,149千円減少し3,401,555千円となりました。この主な要因は、仕掛品が19,619千円、ソフトウェアやのれん等の無形固定資産が294,803千円増加した一方で、現金及び預金が514,795千円、売掛金が44,306千円減少したこと等によるものであります。

(負債の部)

当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比べて71,257千円増加し1,435,749千円となりました。この主な要因は、短期借入金が増加した34,065千円増加したこと等によるものであります。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べて320,407千円減少し1,965,806千円となりました。この主な要因は、新株予約権が5,651千円、少数株主持分が11,314千円増加する一方で、利益剰余金が341,705千円減少したこと等によるものであります。なお、自己資本比率は、56.5%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の総額は、34,055千円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	25,000,000
計	25,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年11月7日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,647,375	6,647,375	東京証券取引所 (市場第二部)	完全議決権株式であり、剰余金の配当に関する請求権その他の権利内容に何ら限定のない、当社における標準となる株式です。なお、当社は種類株式発行会社ではありません。普通株式は振替株式であり、また、単元株式数は100株です。
計	6,647,375	6,647,375		

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成26年11月1日から本四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年9月30日		6,647,375		1,003,158		253,158

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,607,200	66,072	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式。なお、単元株式数は100株です。
単元未満株式	普通株式 38,675		
発行済株式総数	6,647,375		
総株主の議決権		66,072	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、自己保有株式が70株含まれております。

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) アートスパークホールディングス株式会社	東京都新宿区西新宿4-15-7	1,500		1,500	0.02
計		1,500		1,500	0.02

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年1月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,323,533	808,737
売掛金	552,076	507,769
製品	30,453	19,532
仕掛品	18,926	38,546
原材料及び貯蔵品	99,376	93,426
その他	119,140	117,057
貸倒引当金	12,608	6,128
流動資産合計	2,130,897	1,578,940
固定資産		
有形固定資産		
建物	113,436	126,799
減価償却累計額	77,681	84,441
建物(純額)	35,755	42,357
工具、器具及び備品	209,417	247,305
減価償却累計額	189,439	212,000
工具、器具及び備品(純額)	19,977	35,304
有形固定資産合計	55,733	77,662
無形固定資産		
ソフトウェア	855,846	956,597
ソフトウェア仮勘定	88,189	166,411
のれん	27,964	142,210
その他	31,039	32,624
無形固定資産合計	1,003,040	1,297,843
投資その他の資産		
投資有価証券	203,623	188,323
敷金及び保証金	193,517	201,711
その他	55,978	51,276
貸倒引当金		290
投資その他の資産合計	453,119	441,021
固定資産合計	1,511,893	1,816,527
繰延資産	7,914	6,087
資産合計	3,650,704	3,401,555

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	168,904	127,785
短期借入金	390,000	424,065
1年内返済予定の長期借入金	206,879	161,036
未払法人税等	19,776	14,140
返品調整引当金	8,292	3,834
賞与引当金		18,219
その他	227,154	290,097
流動負債合計	1,021,006	1,039,179
固定負債		
長期借入金	267,512	314,147
退職給付引当金	72,078	78,369
繰延税金負債	3,895	4,053
固定負債合計	343,485	396,569
負債合計	1,364,491	1,435,749
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000,320	1,003,158
資本剰余金	479,447	482,285
利益剰余金	773,184	431,479
自己株式	609	865
株主資本合計	2,252,343	1,916,057
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,382	6,296
その他の包括利益累計額合計	7,382	6,296
新株予約権	26,486	32,137
少数株主持分		11,314
純資産合計	2,286,213	1,965,806
負債純資産合計	3,650,704	3,401,555

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
売上高	2,764,150	2,341,789
売上原価	1,898,155	1,771,991
売上総利益	865,995	569,798
返品調整引当金戻入額	3,775	8,292
返品調整引当金繰入額	8,601	3,834
差引売上総利益	861,169	574,256
販売費及び一般管理費	942,098	888,022
営業損失()	80,929	313,766
営業外収益		
受取利息	371	624
受取配当金	6,900	92
為替差益	2,200	-
関係会社清算損失引当金戻入益	6,395	-
事業構造改革引当金戻入益	14,934	-
貸倒引当金戻入額	-	853
還付加算金	1,813	857
その他	567	494
営業外収益合計	33,183	2,922
営業外費用		
支払利息	6,821	7,883
為替差損	-	3,496
持分法による投資損失	13,055	9,535
その他	6,000	5,435
営業外費用合計	25,878	26,351
経常損失()	73,624	337,196
特別利益		
負ののれん発生益	-	13,849
新株予約権戻入益	4,839	595
持分変動利益	7,438	-
その他	-	1,352
特別利益合計	12,277	15,798
特別損失		
支払和解金	7,600	-
投資有価証券評価損	11,004	1,027
持分変動損失	1,395	-
特別損失合計	19,999	1,027
税金等調整前四半期純損失()	81,345	322,426
法人税等	8,469	18,043
少数株主損益調整前四半期純損失()	89,814	340,469
少数株主利益	-	1,236
四半期純損失()	89,814	341,705

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	89,814	340,469
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	33,615	1,086
その他の包括利益合計	33,615	1,086
四半期包括利益	56,198	341,556
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	56,198	342,792
少数株主に係る四半期包括利益	-	1,236

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の変更)

第1四半期連結会計期間において、株式会社エイチアイ（当社の連結子会社）が、株式会社エイチアイ関西の株式を取得し子会社化したため、連結の範囲に含めております。

また第2四半期連結会計期間において、株式会社エイチアイが、株式会社U'eyes Designの株式を取得し子会社化したため、連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日)
税金費用の計算	税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日)
減価償却費	381,154千円	423,701千円
のれんの償却額	5,243千円	11,532千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

平成25年3月開催の定時株主総会決議により、利益剰余金の欠損填補を行い、資本剰余金のうち1,388,473千円を減少し、資本剰余金は479,126千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	コンテンツ ソリューション事業	クリエイ ターサポ ート事業	UI/UX事業	アプリケー ション事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	933,927	454,149	1,123,835	250,438	2,762,350	1,800	2,764,150
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,267		340	980	4,588	4,588	
計	937,194	454,149	1,124,176	251,419	2,766,939	2,788	2,764,150
セグメント利益 又はセグメント損失()	72,168	97,590	126,719	21,520	130,620	49,691	80,929

(注)1 セグメント利益又はセグメント損失()の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない全社収益、全社費用の純額であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	コンテンツ ソリューション事業	クリエイ ターサポ ート事業	UI/UX事業	アプリケー ション事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	823,380	522,686	882,418	113,303	2,341,789		2,341,789
セグメント間の内部売上高 又は振替高	35,000	290			35,290	35,290	
計	858,380	522,977	882,418	113,303	2,377,080	35,290	2,341,789
セグメント利益 又はセグメント損失()	34,678	5,796	404,051	40,308	323,268	9,501	313,766

(注)1 セグメント利益又はセグメント損失()の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない全社収益、全社費用の純額であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

第1四半期連結会計期間より、当社の連結子会社株式会社エイチアイが、株式会社エイチアイ関西の株式を取得し子会社化したことに伴い、UI/UX事業において負ののれん発生益13,849千円を特別利益に計上しております。

また、平成26年4月15日付で株式会社エイチアイは、株式会社U'eyes Designの株式を取得し、子会社化したことにより、UI/UX事業においてのれんが発生しております。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において125,778千円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純損失金額()	13円53銭	51円42銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額()(千円)	89,814	341,705
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純損失金額()(千円)	89,814	341,705
普通株式の期中平均株式数(株)	6,635,038	6,645,154
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		
(うち支払利息(税額相当額控除後)(千円))		
普通株式増加数(株)		
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月7日

アートスパークホールディングス株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小 野 淳 史 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石 井 広 幸 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアートスパークホールディングス株式会社の平成26年1月1日から平成26年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年1月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アートスパークホールディングス株式会社及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。